

佐渡金銀山 世界遺産へ県・市

推薦書原案国に提出

「世界で唯一の物証」

「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の2017年度の世界遺産登録を目指す県と佐渡市は25日、推薦書原案を文化庁に提出した。相川金銀山を中心とする七つの構成資産を挙げ、価値について「400年以上の金生産技術およびそれを担った社会の発展の歴史を示す、世界で唯一の物証」とした。国内候補の中から、国連教育科学文化機関(ユネスコ)に推薦するかどうかは、国が7月ごろ判断する。

県教育委員会によると、この日は、県教委世界遺産登録推進室の北村亮室長らが文化庁を訪れ、原案を手渡した。

原案は付属資料の保存管理計画を含めて約5000ページ。構成資産は相川金銀山のほか、西三川砂金山、鶴子銀山など七つとした。ユネスコが求める「普遍的な価値」には、手工業から機械を使った大規模生産に発展した技術の変遷を物語る遺跡や、技術を支えた街並みが残っている点を挙げ、「世界で唯一の物証」とした。

「やっとここまで来た」

20年近く世界遺産登録運動に取り組んできた佐渡市では「やっとここまで来た」という安堵と、「せら郷土史家などの住民が金山の高ひ世界遺産を実現して」との期待の声が上がった。

市民グループ「佐渡を世界遺産にする会」の弾正校一会長は「提れると思うし、これにかけている。出までこぎ着けることができ、あ佐渡の景気はずっと悪いが、世界りかたい」と受け止める。2004年まで佐渡鉱山の地元、旧相川した。

未来のために何としても登録を実現したい」とした。

世界遺産登録に向け、県と佐渡市は06年に史跡の調査を開始。国内候補地となる暫定リストに記載された10年には有識者による学術委員会を立ち上げ、「普遍的な価値」の検討など準備を進めてきた。

国がユネスコに推薦書を提出するのは年に1候補のみ。県によると、佐渡と競うのは北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群、百舌鳥・古市古墳群(大阪)、宗像・沖ノ島と関連遺産群(福岡)の三つになるとみられる。

関係者に安堵と期待

推薦書原案作成のための遺跡調査を担った佐渡市世界遺産推進課の安藤信義課長は「遺跡の範囲や種類が膨大で調べ上げるのに時間がかかったが、職員は風雨もいとわず調査に当たってくれた。聞き取りなど住民の協力も大きく、提出に至ってうれしい」と語った。

その上で「佐渡は世界の中でも唯一のものだと自信を持って言える。世界遺産は活性化のためにも重要であり、市民のさらなる支援をお願いしたい」と力を込めた。